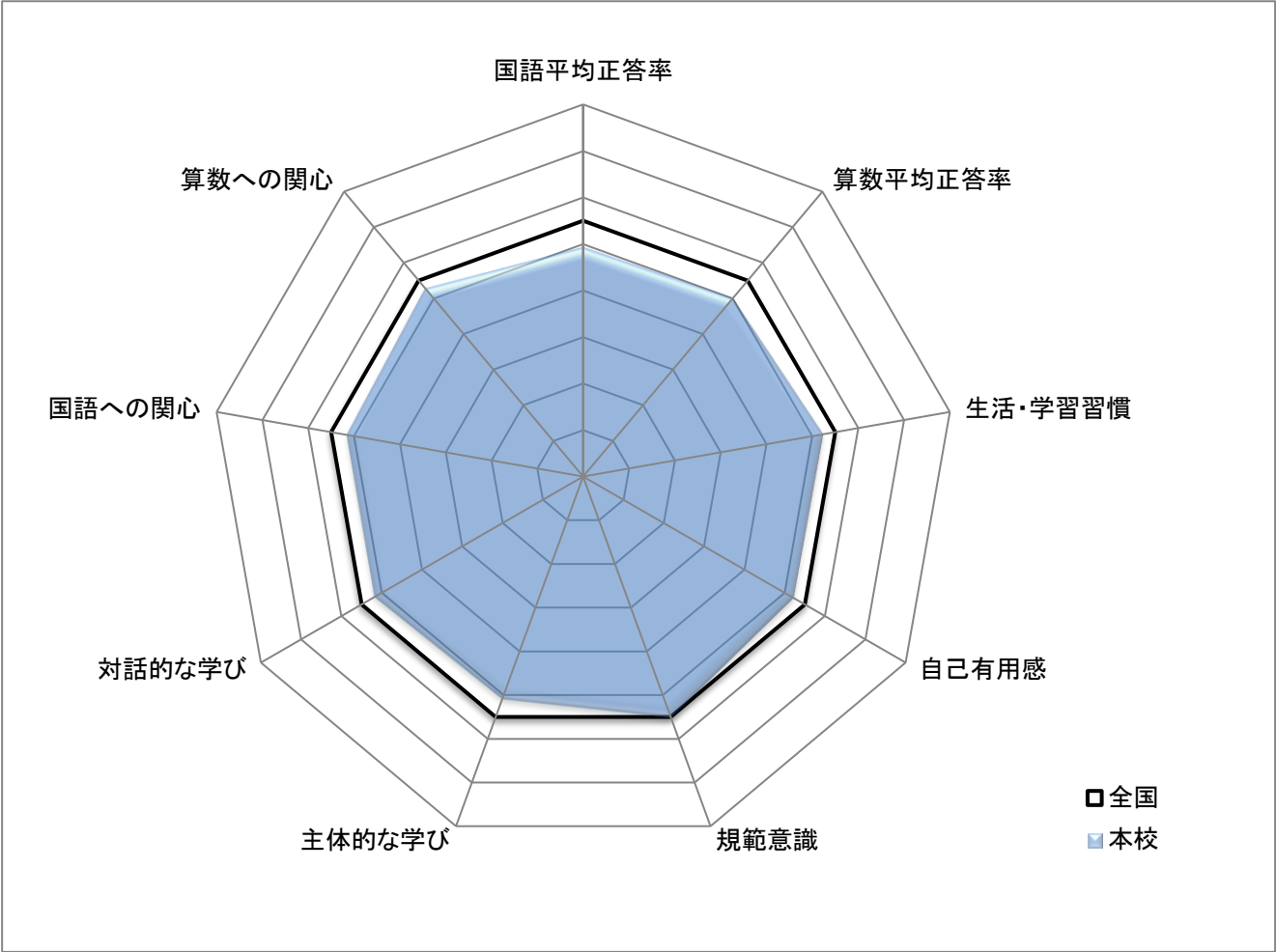


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

- ・算数、国語共に平均正答率、教科への関心等で全国平均を下回っている。
- ・算数では正答率12～16問の比較的学力が高い児童の割合が、東京都、全国と比べて低い。
- ・国語では正答率9～14問の比較的学力が高い児童の割合が、東京都、全国と比べて低い。
- ・算数では、正答率0～4問の学力定着に課題のある児童の割合が、東京、全国と比べて高い。
- ・国語では、正答率0～6問の学力定着に課題のある児童の割合が、東京、全国と比べて高い。

《授業改善のポイント》

- ・C層児童を中心に指導の個別化を図る必要がある。前学年までの学習内容につまずきがある児童が多いため、授業の導入等で本時に関わりのある既習事項を復習できるようにする。
- ・算数科ではC層児童の指導を中心に、取り扱う問題を精選する必要がある。
- ・中間層児童をA層に引き上げるため、算数科では学習の個性化を図り、一単位時間に解く問題数を増やせるようにする。また、課題を終えた児童がタブレットを活用して発展的な内容の学習に取り組めるようにする。
- ・児童が課題解決につまずいた際には、友達と対話的に課題解決できるような関係を築く。
- ・問題の導入を工夫し、児童が主体的に課題解決に取り組めるようにしていく。

《チャートの特徴》

- ・全体的に平均値から低い傾向にある。
- ・平均値から大きく離れる項目はない。
- ・規範意識については全国平均値となっている。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・家庭学習への取り組みを増やすよう働きかける。
- ・宿題を確実に実施するように周知する。
- ・スクリーンタイムを減らすよう働きかける。